

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第1回松阪市スポーツ推進計画策定委員会
2. 開 催 日 時	令和4年5月30日（月） 午後4時～午後5時45分
3. 開 催 場 所	松阪市産業振興センター3階研修ホール
4. 出席者氏名	（委員）◎ 平岡令孝、○ 寺本博美、別府孝文、小濱峯一、 山田美江子、浦田安、小畑真理、前田昭徳、山中美幸、熊野佳幸、 玉利和美、鈴木寛子、（◎委員長 ○副委員長） （事務局）教育委員会 中田教育長、同事務局 刀根局長 スポーツ課 若山課長、川上課長補佐、 山下主幹兼係長、鈴木主任、杉主任
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0名
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 スポーツ課 若山・山下 TFL 0598-53-4402 FAX 0598-26-0133 e-mail sports.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 松阪市スポーツ推進計画について
2. 運動・スポーツに関する市民意識調査について
3. その他

議事録

別紙

第 1 回松阪市スポーツ推進計画策定委員会議事録

I. 開催日時 令和 4 年 5 月 30 日（月）午後 4 時から午後 5 時 45 分まで

II. 開催場所 松阪市産業振興センター 3 階研修ホール
(松阪市本町 2176 番地)

III. 参加者

【委員】 出席委員数/全委員数 12 名/12 名

<1 号委員> 寺本博美様、平岡令孝様、別府孝文様

<2 号委員> 浦田 安様、小畑真里様、小濱峯一様、前田昭徳様、
山田美江子様、山中美幸様

<3 号委員> 玉利和美様、熊野佳幸様

<4 号委員> 鈴木寛子様

【事務局】 7 名

中田教育長、刀根教育委員会事務局長、若山スポーツ課長、
川上スポーツ課長補佐、山下スポーツ担当主幹兼スポーツ係長事務取扱、
鈴木スポーツ係主任、杉同係主任

IV. 会議概要

1. 開会

事務局（スポーツ課長）の司会進行により開会
会議の公開、会議録作成のため内容の録音、会議録の公開を行うことを説明

2. 委嘱状の交付

事務局（スポーツ課長）より、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教育
長から委嘱状を直接交付するのではなく、各委員の自席に委嘱状を交付済みとする旨
を説明し、委嘱状を交付

3. 委員及び事務局自己紹介

前田委員より右回りにて、各自自己紹介後、事務局より自己紹介

4. 松阪市スポーツ推進計画策定委員会規則について

規則内容について、事務局（山下）より概要【資料 2】を説明

5. 正副委員長の選任について

司会より、松阪市スポーツ推進計画策定委員会規則第 4 条により、教育委員会が指
名することとなっていることを説明のうえ、委員長に平岡令孝様、副委員長に寺本博美
様を指名・選任

6. 正副委員長挨拶

平岡委員長及び寺本副委員長より就任の挨拶

7. 諮問

松阪市スポーツ推進計画策定委員会規則第 2 条の規定により、教育長が平岡委員長へ諮問内容、理由を説明し、諮問書を交付

【退席】 諮問後、教育長及び教育委員会事務局長は所要のため退席

8. 議事「松阪市スポーツ推進計画の見直しについて」

(1) 松阪市スポーツ推進計画について

事務局（山下）より、【資料 3】を用いて、スポーツ推進計画の策定趣旨、計画の位置づけ、計画期間、計画の体系を説明

続いて、スポーツを取り巻く現状としてスポーツ施設、スポーツ関係団体、スポーツイベントについて、現状の課題をあわせて説明

最後に、松阪市スポーツ推進計画の指標、策定に向けての今後の予定について説明

(2) 運動・スポーツに関する市民意識調査について

事務局（山下）より、【資料 4】を用いて、運動・スポーツに関する市民意識調査の調査目的、調査事項の考え方、調査の概要（調査対象数、抽出条件、実施時期等を説明

(3) 意見交換

【質疑応答】

（委員長）事務局からの説明あった事項について当委員会にて協議することとなる。委員の皆様の見解をお願いしたい。 →特に発言なし

（委員長）最近では、施設は集約・大規模化されてきている。このため、身近にあった施設が減少している。また、今の施設で十分であるとは思っていないと思うが、委員の方々はどう感じているか。 →特に発言なし

（委員長）事務局としては、将来的に施設をどのようにしていきたいかの考え方はあるか。

（事務局）施設については、設置後かなりの期間が経過しており、修繕をしながら利用している状況。今回、プールとテニスコートについてどうしていったらよいかを提起したが、施設については、個々の施設をどう位置付けるか、スポーツ施設として集約すべき施設であるか、またはスポーツ施設というよりは身近な施設として地域に移管すべき施設であるか検討する必要がある。施設の大規模修繕や建て替えについて、優先順位をつけるなどの個別計画の作成が課題となつて

いる。スポーツ施設に限らず、市の施設全体での課題であるが、集約や場合によって廃止する施設も出てくるかと思うが、利用される方が利用しやすい施設となるよう考えていく必要がある。

(委員長) では、次にスポーツの関係団体についてはどうか。

(委員) 昨年、とこわか大会が開催され、総合体育館では健康体操が開催される予定であったが、大会関係者からは、トイレの環境が悪いとの意見が多く、教育長への要望により、一部洋式化された。市では、トイレの整備が遅れた施設が多いのではないかと。施設の老朽化は理解できるが、このような部分の改良を進めることを検討してほしい。

次に、計画の中で、レクリエーション団体にかかる記述がある。各団体は一生懸命活動しているので具体的に団体の名称を明示してほしい。

(委員長) トイレの件ですが、最近の小学生は和式便器を使えない児童・生徒がいる。競技に参加していても、用を足すことができず、失禁してしまう子もいる。トイレの改修は進めてほしい。

(事務局) 各施設については、言われた通りの現状であるが、コロナの感染拡大防止に伴う国の交付金が交付されるニュースを耳にされたことがあると思う。この交付金では、トイレの改修や手洗いの自動栓化も交付金の対象となっており、この交付を受け、ここ2年程度でトイレの洋式化などを市の各施設で進めている。今ある施設を有効に活用していくためにもこのような改修は大事なことであると考えていると考えている。

(委員長) 成長期の子供の運動量が絶対的に不足している。このコロナの影響により、さらに進んでいる。このような状況になっており、運動に対するモチベーションが減少している。この状況を改善できる内容も計画に盛り込んでほしい。

(委員) 少子化の問題もあり、スポーツをする子供も減少しているが、指導者も減少しており、このままだと楽しくスポーツをできる環境がなくなるのではないかと心配している。

(委員長) 本来であれば、オリンピック開催後はスポーツに取り組みたい意識はかなり高まるはずだが、コロナの影響でしたくてもできないという状況にある。市の予算で有名なスポーツ選手を招聘しスポーツへの取り組み意識の向上も考えてほしい。

(委員長) 計画全体に係る意見はどうか。 → 特になし

(事務局) 計画の指標について、補足説明をしたい。小学5年生の運動時間に係る指標だが、これは、全国で実施されている全国体力運動能力調査が毎年実施されており、この結果を指標にしている。現状数値より目標数値が下がっているが、スポーツをする時間が長くなることを目標とするため、割合は減少することとなる。

(委員長) 意識調査についてはどうか。 → 特になし

(委員) 話がそれるが、スポーツ少年団でもスポーツをする場所までの送迎も負担となっていており課題である。指導者も高齢化しており、送迎も難しくなっている。

(委員長) 小さい子供は必ず送迎が必要。各団体では、どのような対応をしているか。いい案があれば発言願いたい。

(委員) 送迎は団体の人に任せることが多い。若い指導者もいるが、大学を卒業すると県外に行ってしまう。

・・・指導者を見つけることも難しい。

(委員長) 学校の部活動が変化してくるのではないかと考えている。アメリカのように種目別に専門化していくのではないか。現に水泳では、スイミングスクールに入っている選手が、学校に水泳部がなくても大会出場では学校所属として出場している。このように変化していく。水泳では小学校のプールは減少していくだろうし、水泳指導もできなくなっていくだろう。しかし、玉城町では 50m プールを早くから持っている。このため、有名な選手を呼び、選手も育てている。紀伊長島から尾鷲の子供たちにも素晴らしいプールを作ったおかげで指導でき、選手も育てている。松阪市でも民間の施設に何もかも委ねるのではなく 50m のプールを持ってほしいと思う。

委員が言われたように、指導者の発掘は課題。女性の指導者は少ないので、指導者の確保、特に女性の指導者の確保も検討してほしい。補足だが、陸上短距離の世古和選手や走り高跳びの衛藤昂選手もそれぞれ陸上クラブを作った。野口みずきさんも同様になるだろう。このように、クラブ化し学校の部活から離れていくだろう。ここままで、事務局から補足することはありますか。

(事務局) 中学校の部活動については、地域へ移管する方向になってきている。この移管では、指導者の確保が課題。学校の部活動から地域のスポーツ活動へ移行することで、どのように子供たちを地域が育てていくかも課題。特に組織の充実や指導者の確保・育成は課題だと認識している。施設の課題ですが、公園プールは 25m プールであり流水プールとは目的が異なっているため、市営プールの在り方を今度どのように整理していくか大きな課題。

(委員長) 公園プールは競技用プール、流水プールはレジャープール。目的が異なる。時代の変化の中でどうしていくかの検討は止むを得ない。

その他では何かないか。

(委員) 施設は、県内ではトップクラスではない。これをどうしていくかは話し合わなくてはならないだろう。地元出身のトップアスリートには市民の皆さんはあまり関心がないと思ったが、土性沙羅選手のパレードやオリンピックでのパブリックビューイングの盛況ぶりを見たら捨てたものではないと感じた。こういったことから、施設はぜ

ひ直していかなくてはならない。スケートボード場やマラソンは勇気のいる決断。よく決断した。これと同じように施設についても決断をしてほしい。

(委員長) 私はスポーツをしているので、スポーツに偏ってしまう意見となってしまうが、施設がないならいなりどうしていったらよいか考えてほしい。人口16万人の都市であるのに、陸上競技での全天候型トラックがないのは残念。土のトラックと全天候型では、シューズのピンからして異なる。全天候型トラックに行くと初めてピンが違うことを知る選手もいるが、このような選手でも全国大会に行く優秀な人材がいる。また、指導者の発掘・育成にも力を注いでほしい。他にはどうか。

(委員) 資料3の最後の松阪市のスポーツの課題について説明してもらいよくわかったが、(1) スポーツ施設の拠点整備に関する要望が強くなっているが、何か根拠となるような資料等はあるか。

(事務局) 客観的なアンケート調査によるものではないと思うが、各関係者や団体からの要望は頂いている。先日、マラソンの関係で岐阜清流マラソンを視察した。マラソンのスタート・ゴール地点の岐阜メモリアルセンターは野球場や体育館、陸上競技場など1か所に集中しており、ランナーの受け入れを非常にしやすいと感じた。

(委員) 施設の問題だが、一般の人には非常に使いづらい。学校関係は特にそう。このため、一般の人が気軽にスポーツを楽しめる状況にはないので、気軽に使える施設を作してほしい。

(委員) 保護者代表として、こういった機会に参加できありがたい。自分の子供が中学生の時にテニスをしていた。練習や試合でいろいろな施設に行ったが、会場の種類ごとに履くシューズが異なることがあり、それに合わせに行かなくてはならず、子供ながらにスポーツをしづらい環境にあることを認識していたようだ。子供たちが気軽に行っても楽しめる施設があってもよいのでは。子供の視点でも考えていただきたい。まずは、1か所に集中した施設をつくることを前提に、どうしたら子供や市民が集えるかといったことやスポーツを通じて子供たちが集える、育むということが大切。まずは、この計画の見直しに前向きに取り組みたい。これと並行してしっかり対応策を考えていくと、子供たちにとっても松阪市モデルという立派な施設ができる。運動している子供たちが将来的にもスポーツを続けていける環境となる。保護者の視点も取り入れながら、並行してどうしたら意識が高まるかを考えていけば、保護者も家庭からもしっかりしなければいけないのかなと思う。家に帰って、子供とも話をし、計画につなげていきたい。

(委員長) 貴重な意見ありがとうございます。今年はスポーツの推進に向けた改革の年だと思う。コロナの関係で子供たちのモチベーションも低下してきている。このような

状況も踏まえ、意見を考えてもらい次回会議へ反映できるようにしてもらえればと思う。

(委員) スポーツする意識やスポーツ施設に対する意見が多いようであった。もちろんハード面の整備は必要。指導者の関係も学校のスポーツクラブのこともこれからの課題であると思う。私はスポーツ推進委員として生涯スポーツの取り組みを主にしている関係上、ソフト面でのスポーツができる環境づくりやスポーツボランティア、気軽に集まれるようなシステム作りも検討してほしい。学校の大会での送迎もスポーツボランティアをお願いすることもひとつ。ボランティアを募集することもスポーツの機運を高める一つではないかと思う。

(委員長) ボランティアは大切・大変である。高齢の方でもウォーキングのボランティアに参加されている。マラソンでは、沿道の方々にも応援など要請も必要。ボランティアとして参加し、一体となれるようなことが大切。選手は応援されると頑張る。周囲の助けが必要だ。

(副委員長) 皆さんの意見をみると、「する」、「みる」の視点が多いような気がした。これだけではなく、「支える」も重要。計画にも記載されている。「する」、「みる」、「支える」ということが基本であり、皆様の意見をききながら改めて認識した。もう一つは、施設をどうするかは大きな問題、マクロ的な視点とミクロ的な視点の両方からの検討が必要。これを検討するのが委員に課せられた役割。両方とも考えなくてはならないのは非常に大変。これを考えていくには「施設と人」がキーワードになるのではないかと。1か所に集めるというのは集積の利点があるが、制約条件、大きな用地が必要。施設が点在しているため、集積の利点を生かすことは難しい。1か所に集め大きな施設とすることは難しい。ネットワークと交流が盛んになるようになれば、大きな施設でなくてよい。県内、東海、全国、そこそこ人が集まれる施設でいい。総合運動公園には立派なスケートボード場があり、有能な選手がたくさん来る。家の近所には某有名球団に入団した選手がいる。もっと、もっとこうした有名な選手がいることを情報として流すことも重要。私の子供も、高校時代に部活動をしており、スポーツがいかに地域に貢献していくか身をもって経験している。いい案ができるようにしていきたい。

(委員長) ほかにご意見はないでしょうか。ないようでしたら本日の議事を終了したいと思います。事務局に進行をもどします。

(事務局) 短い時間の中で有意義な意見交換をいただきありがとうございました。次回会議にはもう少し具体的なものを提供し、協議をしていただくことを予定している。

話の中でボランティアと施設に関する話題があった。ボランティアは重要と思っている。みえ松阪マラソンでは3,000人のボランティアの募集を予定している。松阪に

は、全体的にボランティアが育っているとは言えない状況にあるが、一致団結してボランティア文化を発信するにも、この大会が重要と考えている。皆さんにもボランティアに参加いただき、12月18日の大会を成功に収めていきたい。次に施設の問題ですが、財政的な問題もあるが、施設を作るにも今はいろいろな方法があり、民間資金を活用するもの、運営を民営化するなど以前のように行政一辺倒ではない柔軟な方法がある。この点についても、施設の在り方、運営の在り方についても次回会議にて協議をお願いしたい。

9. その他

次回会議の開催日程を調整し、開催日は令和4年10月19日（水）、開催時間は午後3時または午後4時を基本に委員長と副委員長に相談のうえ、決定することとし、決定後、各委員へ開催案内することとなる。

《午後5時45分ごろ終了》